

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2026年9月)

2026年9月2日

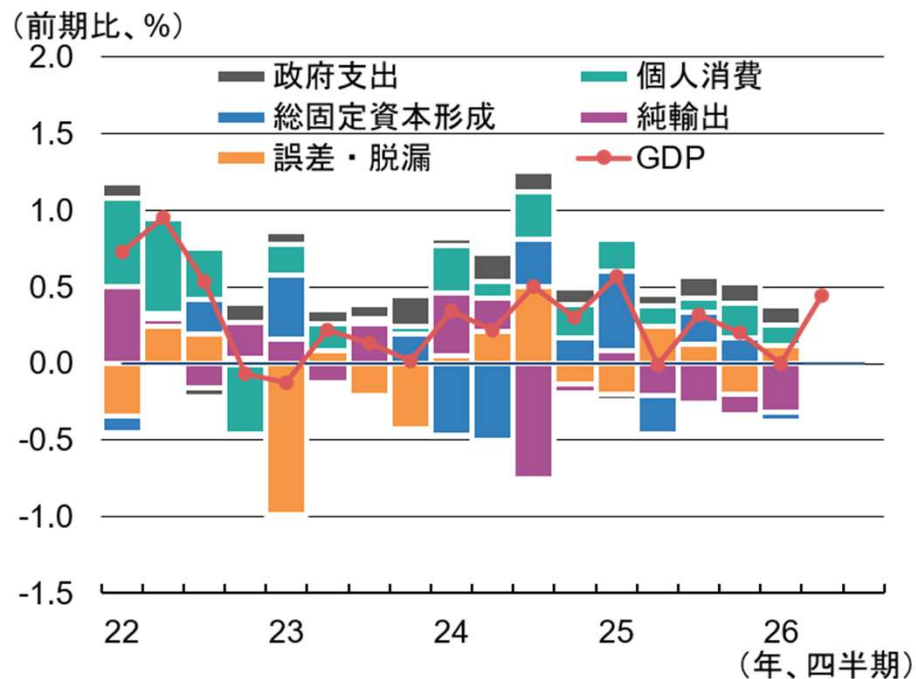
調査部 主任研究員

土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

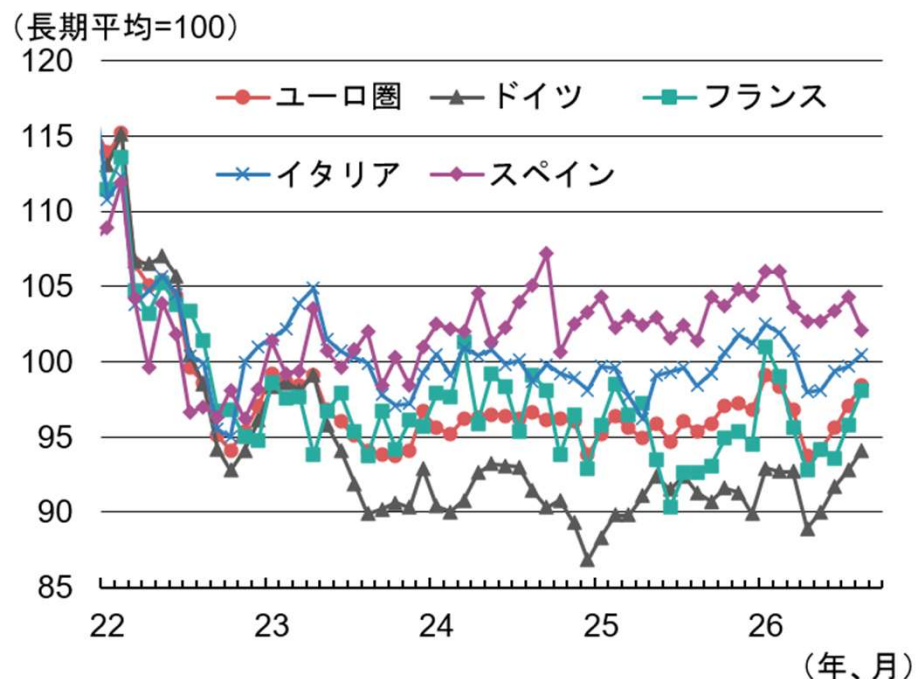
ユーロ圏の4-6月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.4%と、1-3月期(同横ばい)から反発した。主要国別には、スペインが同+0.7%と好調を維持したほか、ドイツ(同+0.3%)とイタリア(同+0.2%)も底堅い。一方、最新8月の景況感指数は98.4と4カ月連続で上昇した。ただし、酷暑によるさまざまな調整圧力が景気を圧迫しているもよう。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

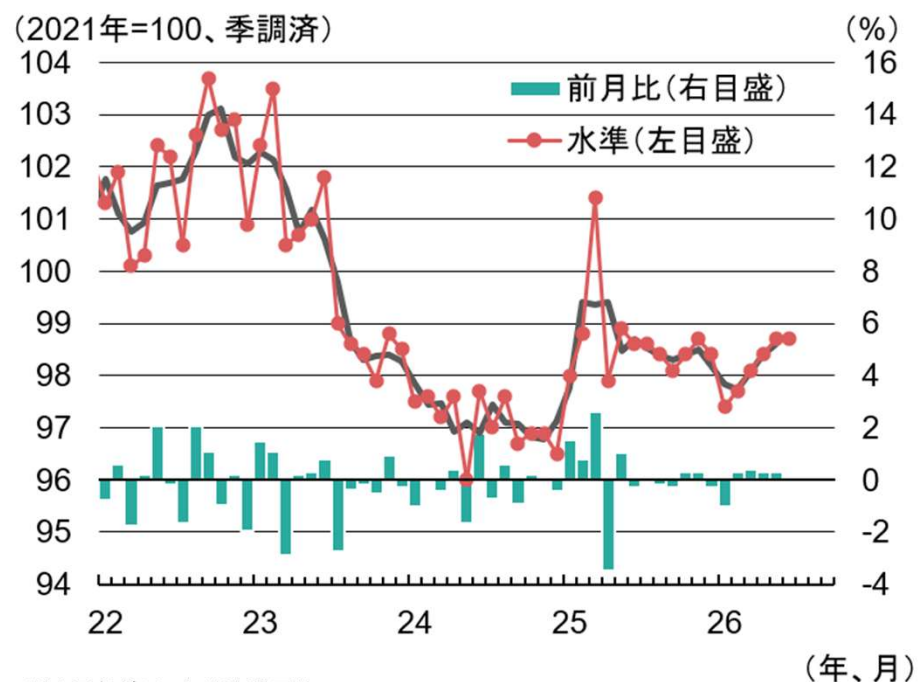


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷している

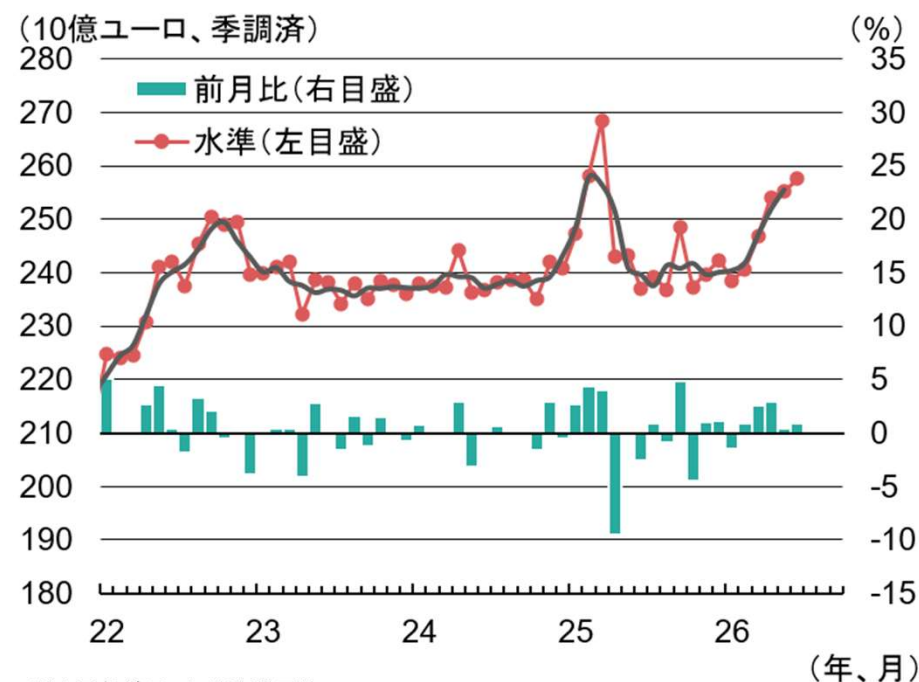
ユーロ圏の6月の鉱工業生産は前月比横ばいとなり、均した動きは頭打ち。資本財や中間財が減産に転じて生産全体を下押しした。一方、同月の名目輸出は同+0.9%と増勢が加速し、均した動きは上向き。ゆえに生産の低迷は内需向けが主因である可能性が意識される。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

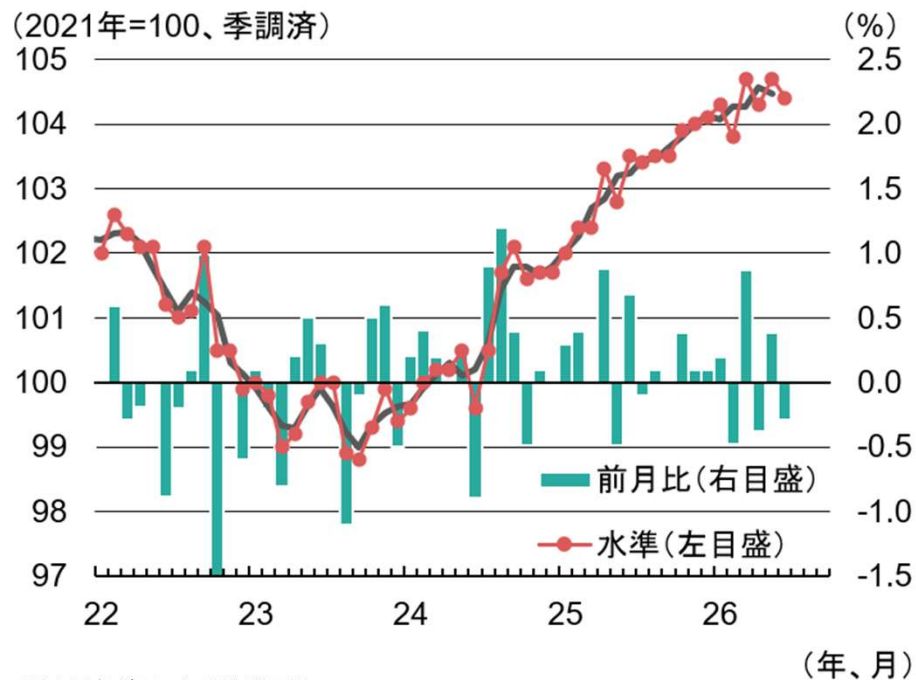


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は頭打ち

ユーロ圏の6月の小売数量は前月比▲0.3%と再び減少し、均した動きは頭打ち。一方、同月の新車販売台数は前月比+1.5%の年率979万台と5カ月連続で増加し、均した水準は上向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

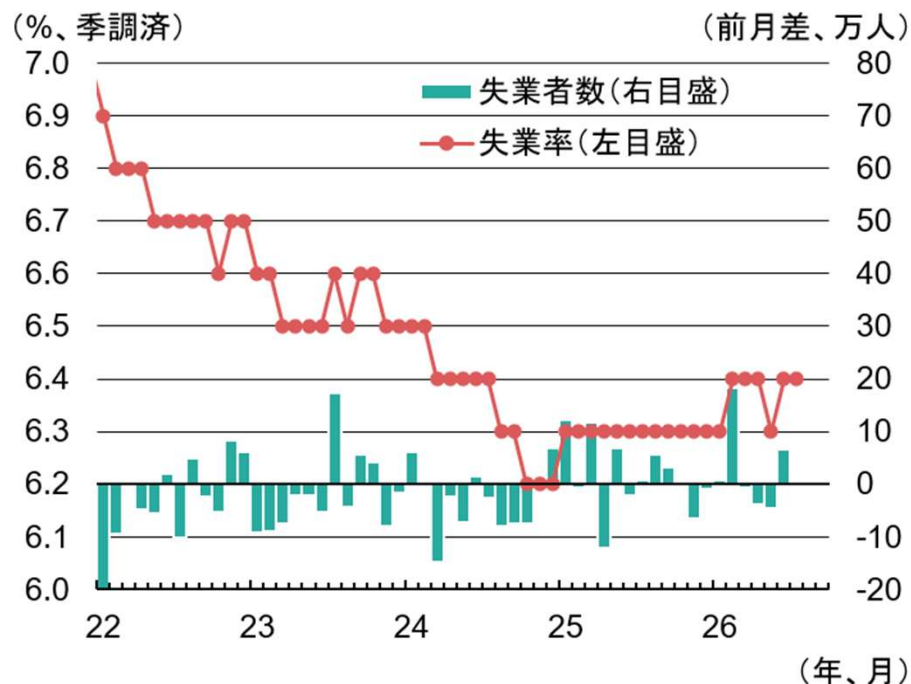


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態

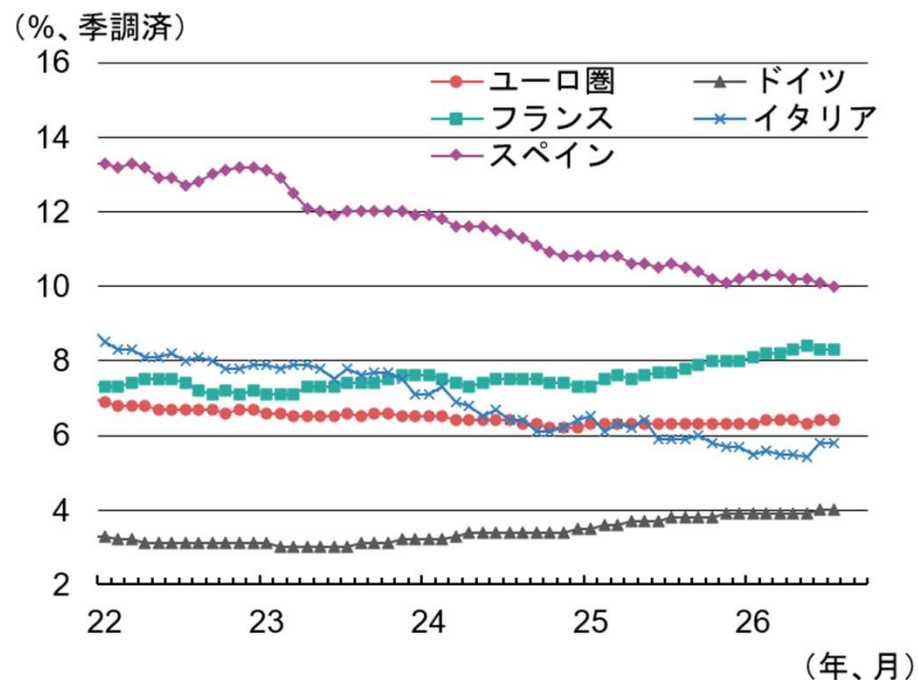
ユーロ圏の7月の雇用統計では、失業率が6.4%と2カ月連続で同じ水準となった一方、失業者数は前月差横ばいとなった。失業率・失業者数とも一進一退が続いており、完全雇用の状態と判断される。失業率を主要国別に確認すると、ドイツやイタリアの失業率の上昇が目立つ。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

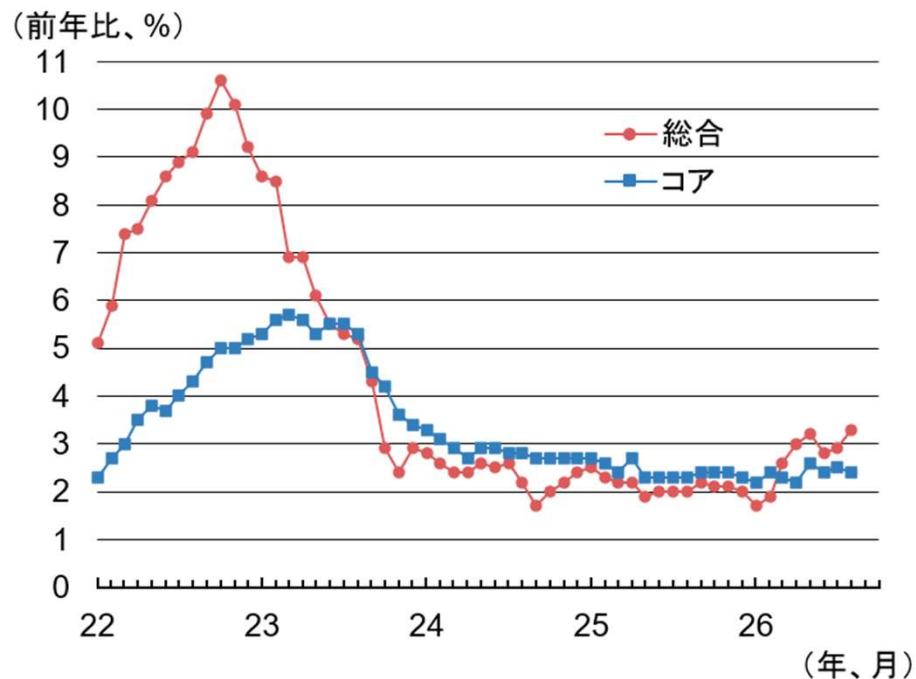
主要国別失業率



ユーロ圏景気概況⑤ インフレは強含み

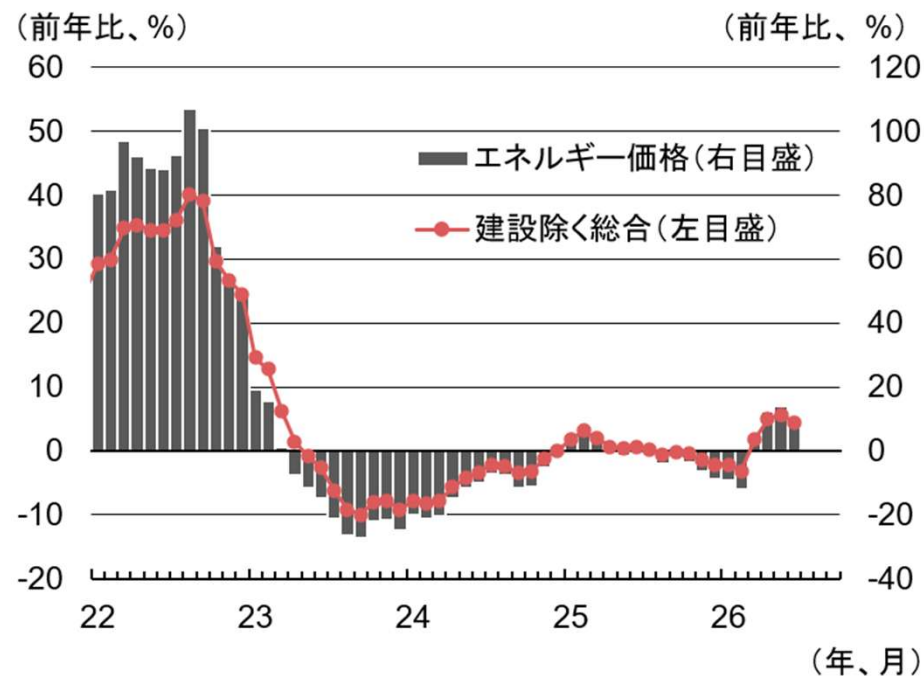
ユーロ圏の8月の消費者物価(総合ベース)は前年比+3.3%と、前月(同+2.9%)から上昇が加速した。また生産者物価(建設除く総合)は6月時点で同+4.4%と、3カ月ぶりに上昇が鈍化した。うちエネルギー価格は同+8.6%と3カ月ぶりに一桁台の伸びに鈍化した。依然として強含み。

消費者物価



(出所) ユーロスタット

生産者物価

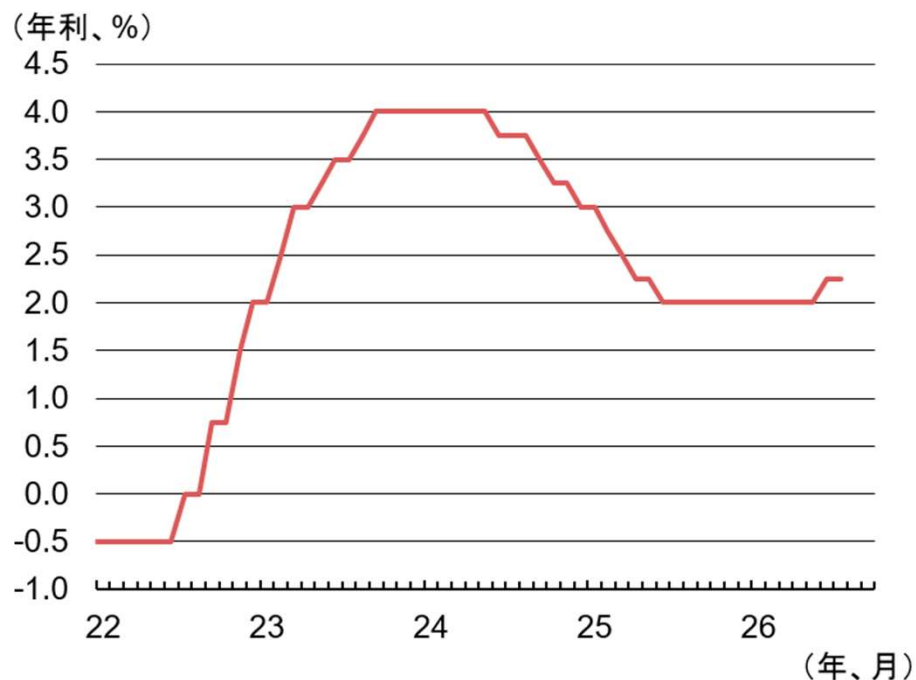


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは9月理事会で金利を引き上げる見通し

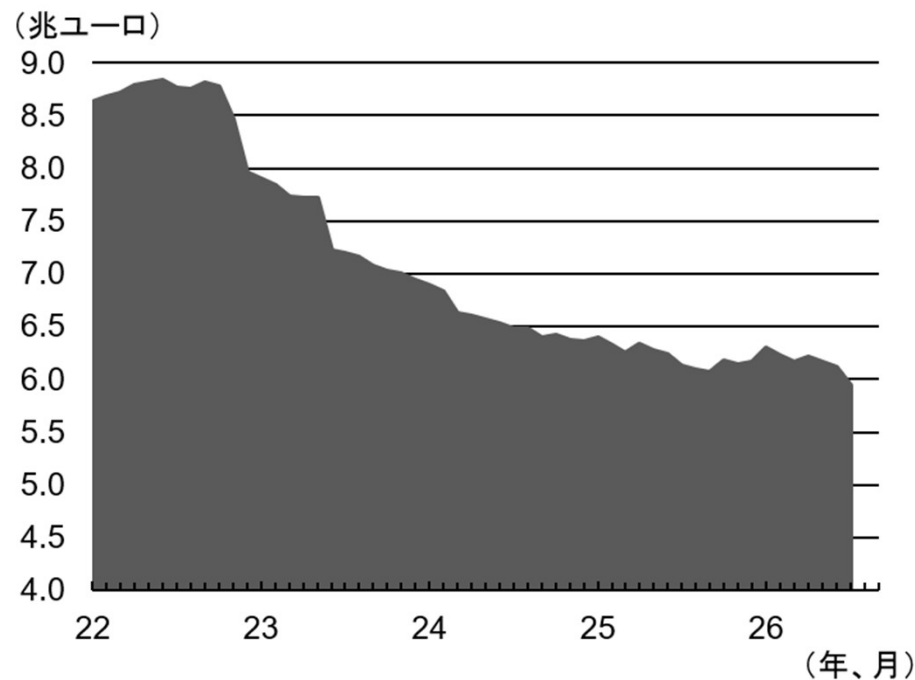
欧州中央銀行(ECB)は9月10日に政策理事会の結果を公表し、政策金利(預金ファシリティ金利)を現行の年2.25%から年2.5%へ引き上げる見通し。3%近いインフレが定着している一方、景気が底堅いことが背景。次々回の理事会の結果は10月29日に公表される予定。

政策金利(預金ファシリティ金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

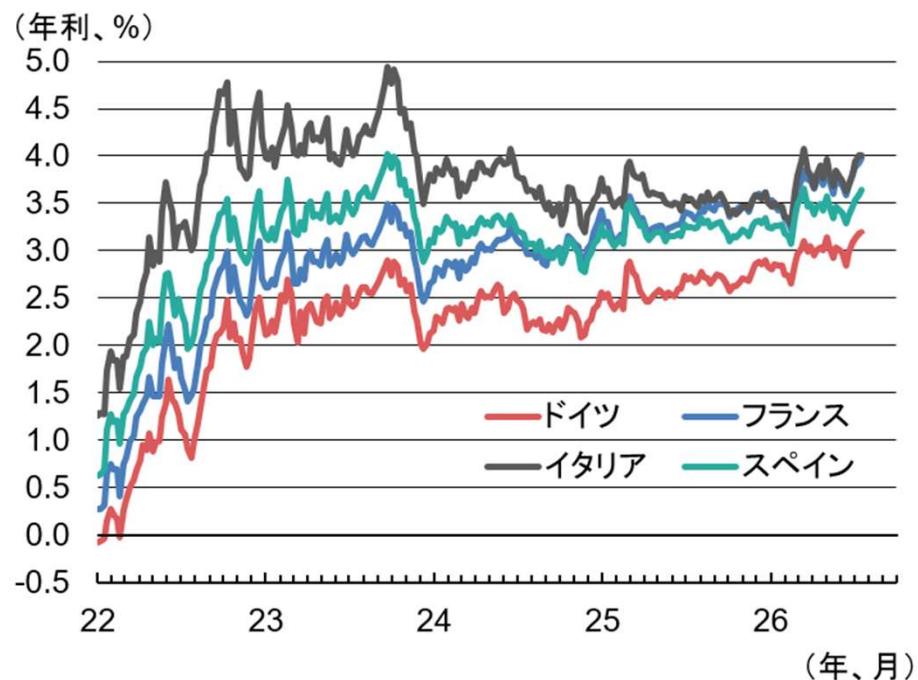


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価も上昇

ユーロ圏主要国の8月の長期金利は上昇した。インフレの根強さと財政面での圧力(特にフランス)に対する投資家の懸念が金利を押し上げた。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた。

10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

株価(EURO STOXX 50)



(出所) STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円ともに上昇

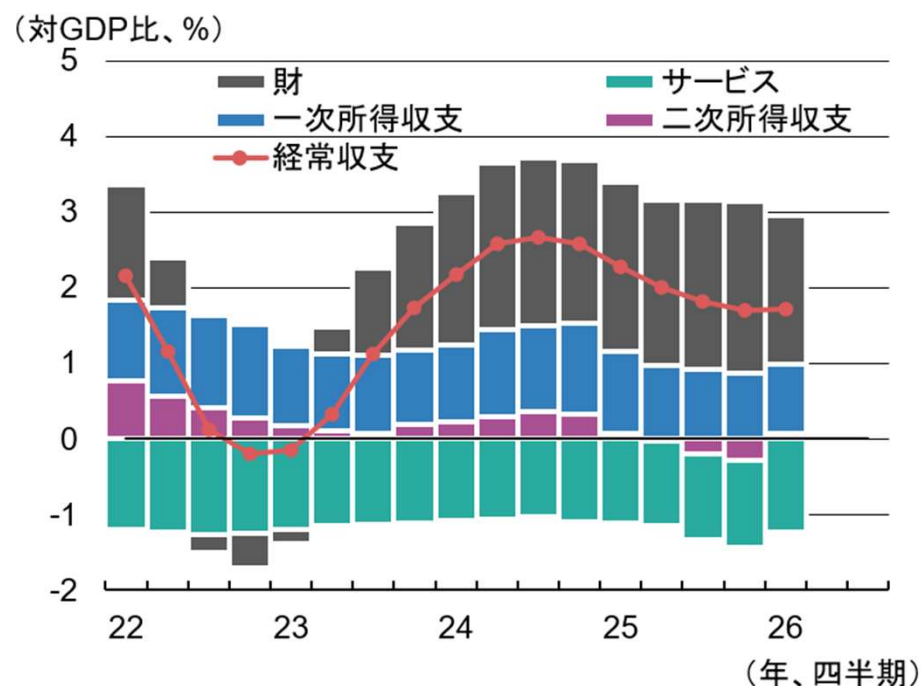
EUの通貨ユーロの8月の相場は対ドル・対円ともに上昇した。7月に米連銀(FRB)が行ったユーロ売り円買い介入の効果が一巡した形となった。経常収支は、財収支(貿易)黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支

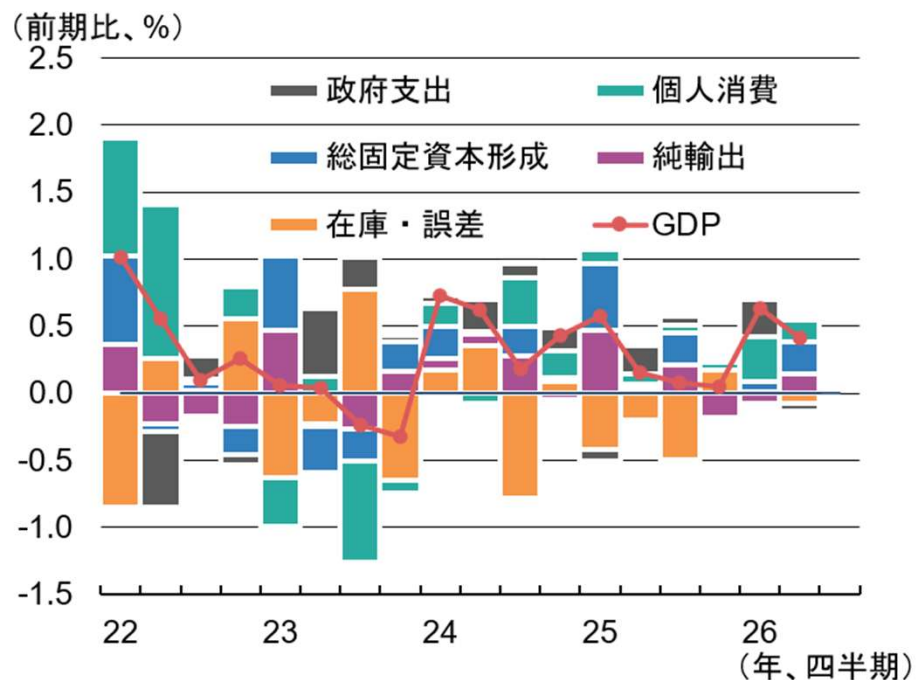


(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は拡大している

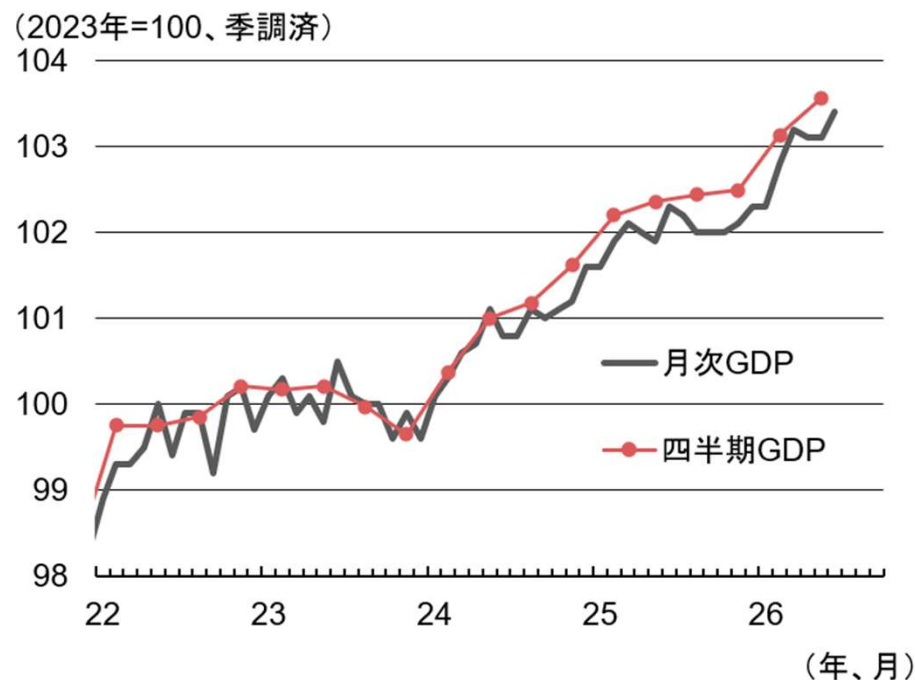
英国の4-6月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.4%と、1-3月期(同+0.6%)から増勢が鈍化した。需要項目別には、総固定資本形成が堅調に推移した一方、個人消費が鈍化した。また6月の月次実質GDPは前月比+0.3%とプラスに転じた。

実質GDP



(出所) 英国立統計局 (ONS)

月次実質GDP

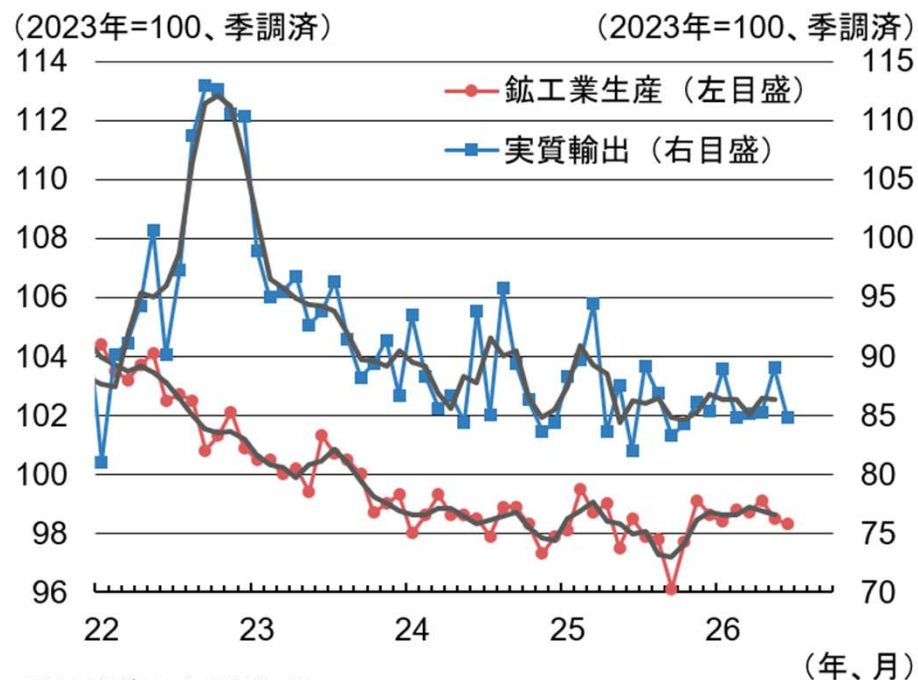


(出所) ONS

英国景気概況② 生産は低迷している

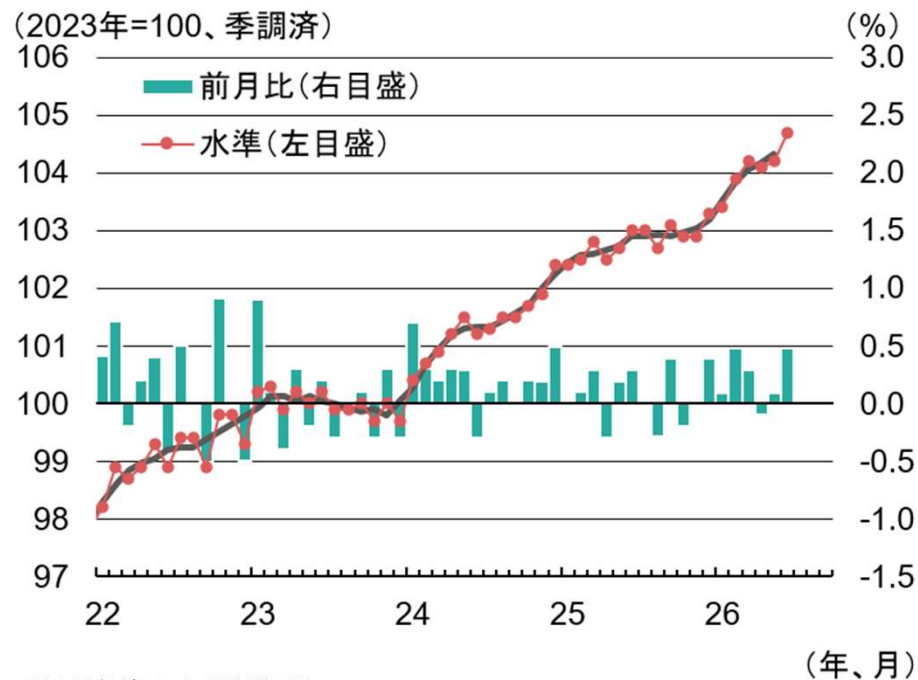
英国の6月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と2カ月連続で減少、また同月の実質輸出も同▲4.7%と再び減少し、いずれも低迷している。他方で、同月のサービス業生産は同+0.5%と前月(同+0.1%)から増勢が加速し、均した動きは上向き。

鉱工業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

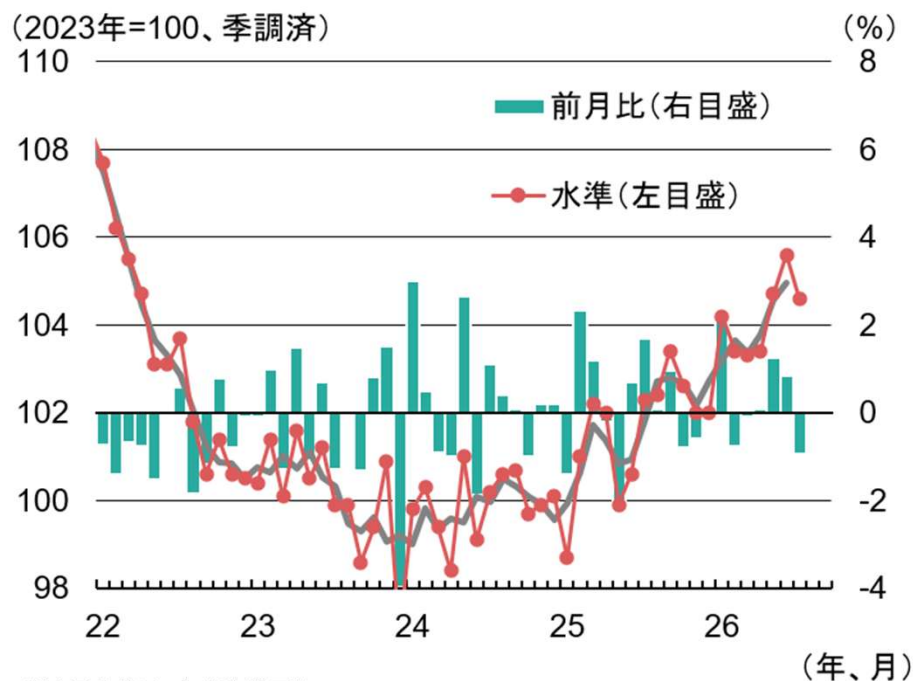


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は回復している

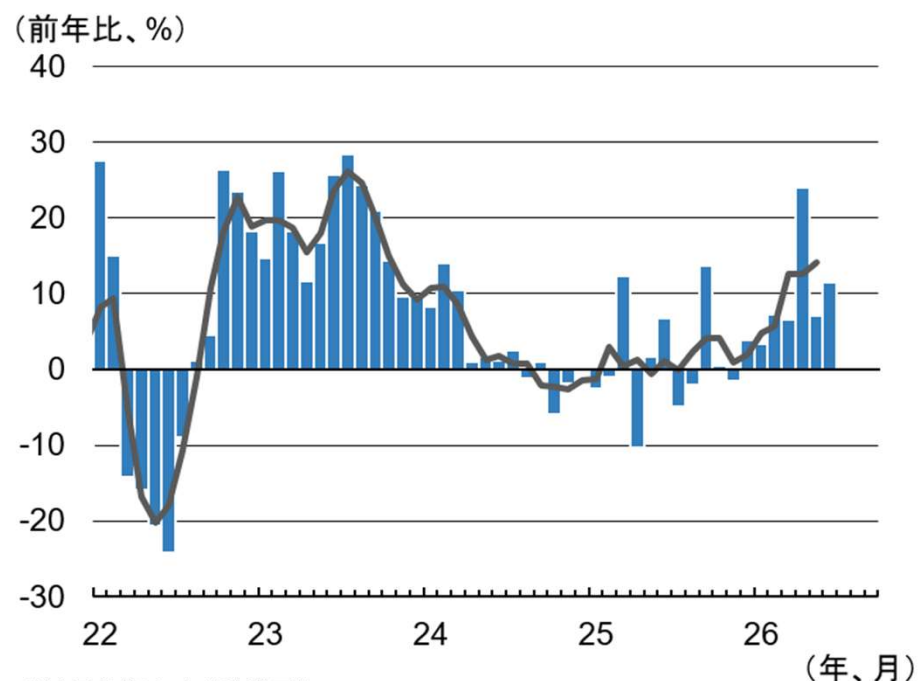
英国の7月の小売数量(除く石油)は前月比▲0.9%と再び減少したが、均した動きは上向き。また6月の新車販売台数(乗用車)は前年比+11.4%と前月(同+7.4%)から増勢が加速し、均した動きは堅調を維持。市場規模は年率211万台レベル。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

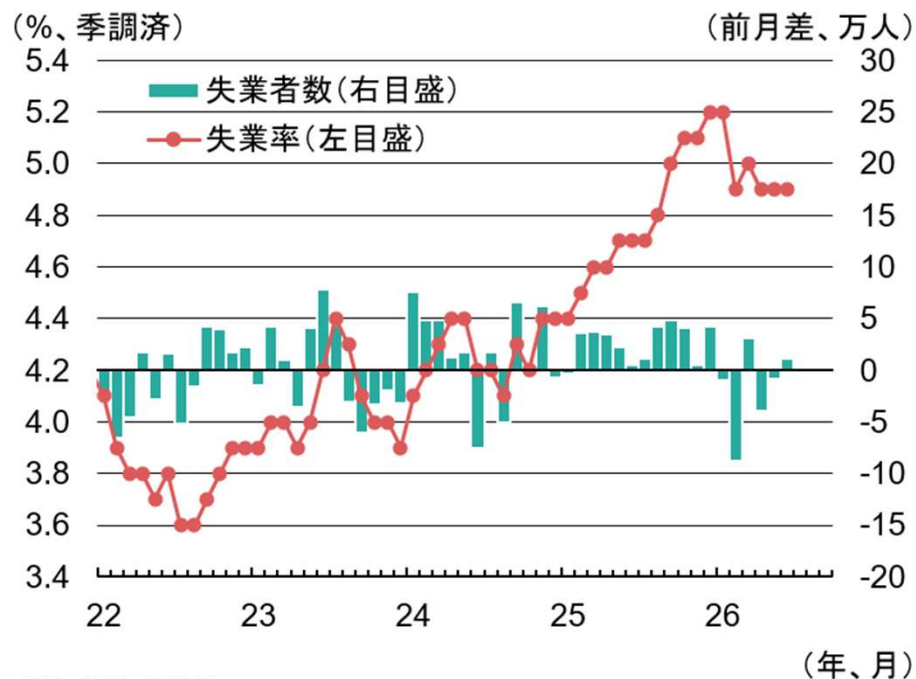


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会 (SMMT)

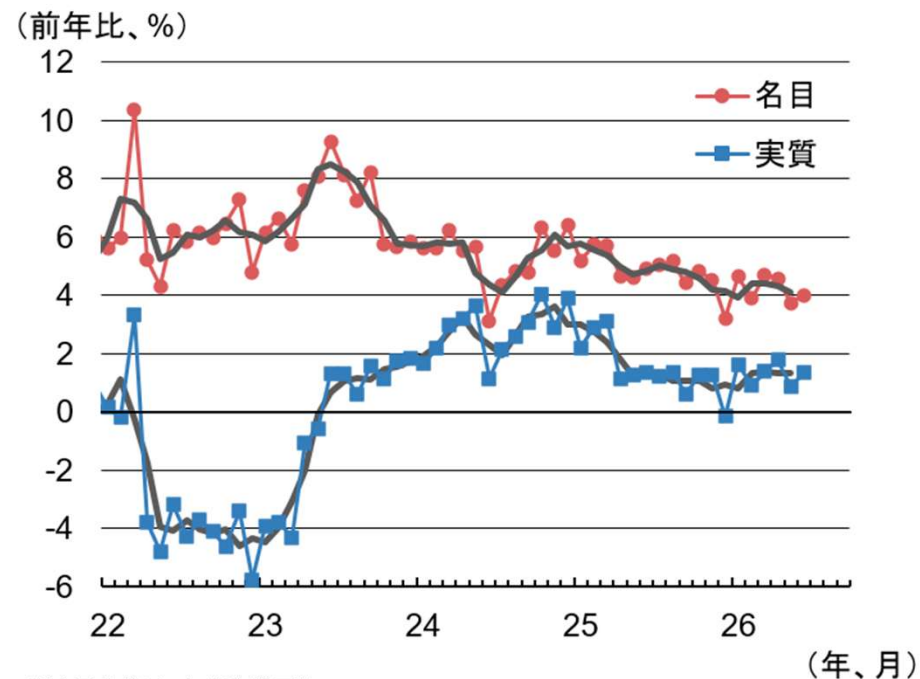
英国景気概況④ 雇用は悪化が一服

英国の6月の雇用統計では、失業率(3カ月移動平均)が4.9%と3カ月連続で同じ水準となった一方、失業者数は前月差1.2万人増と3月以来の増加となったものの、雇用情勢は悪化が一服している。一方、賃金の増勢は、物価変動の影響を除いた実質ベースだと前年比1%台前半で横ばい。

失業率



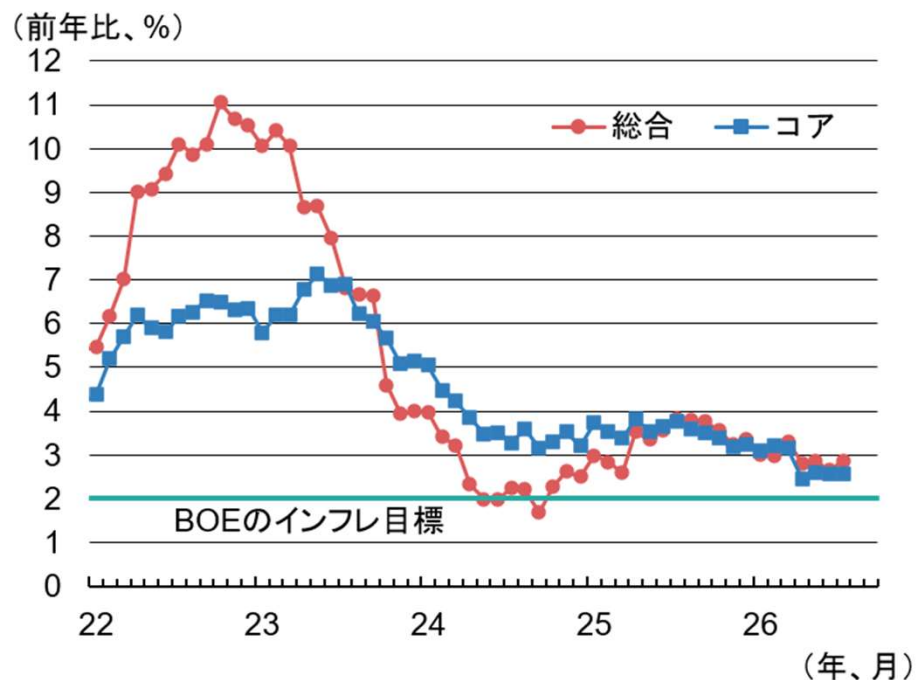
平均賃金(週給)



英国景気概況⑤ インフレは横ばい圏

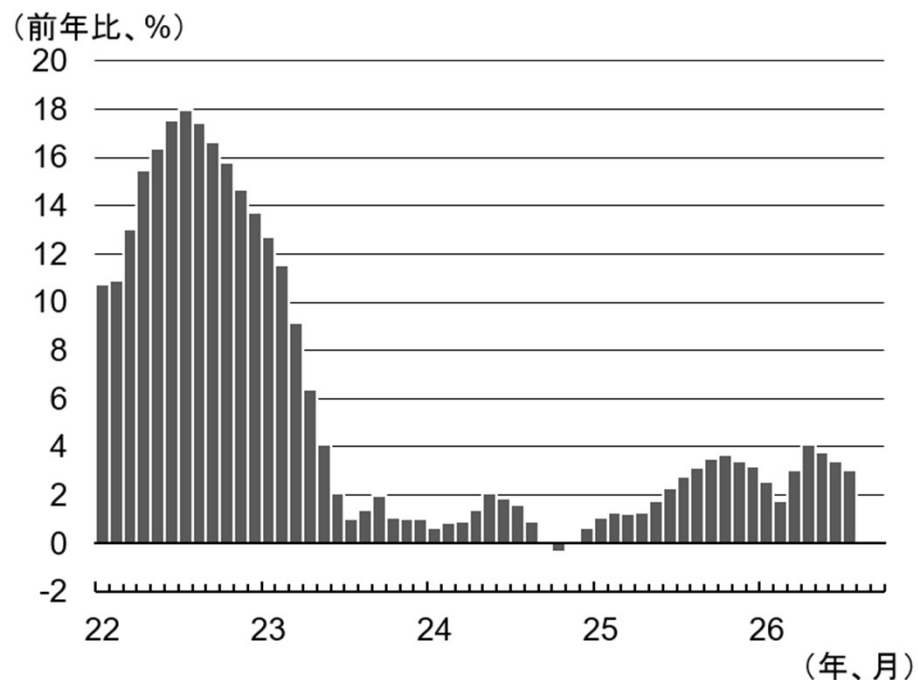
英国の7月の消費者物価は、総合ベースが前年比+2.9%と前月（同+2.6%）から上昇が加速した一方、変動の激しい項目を除いたコアベースは同+2.6%と3カ月連続で同水準となった。一方、同月の生産者物価（産出ベース）は同+3.1%と3カ月連続で伸びが鈍化した。イラン情勢の緊迫化に伴う燃料価格の高騰の影響は川上部門でもまだ限定的なもよう。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(産出ベース)

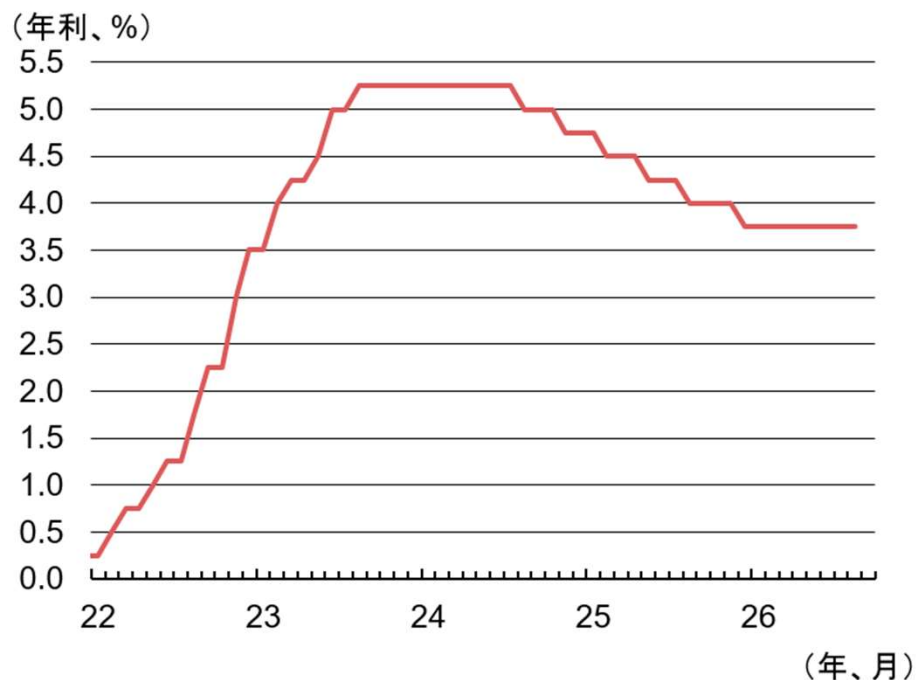


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは9月委員会で金利を据え置く見通し

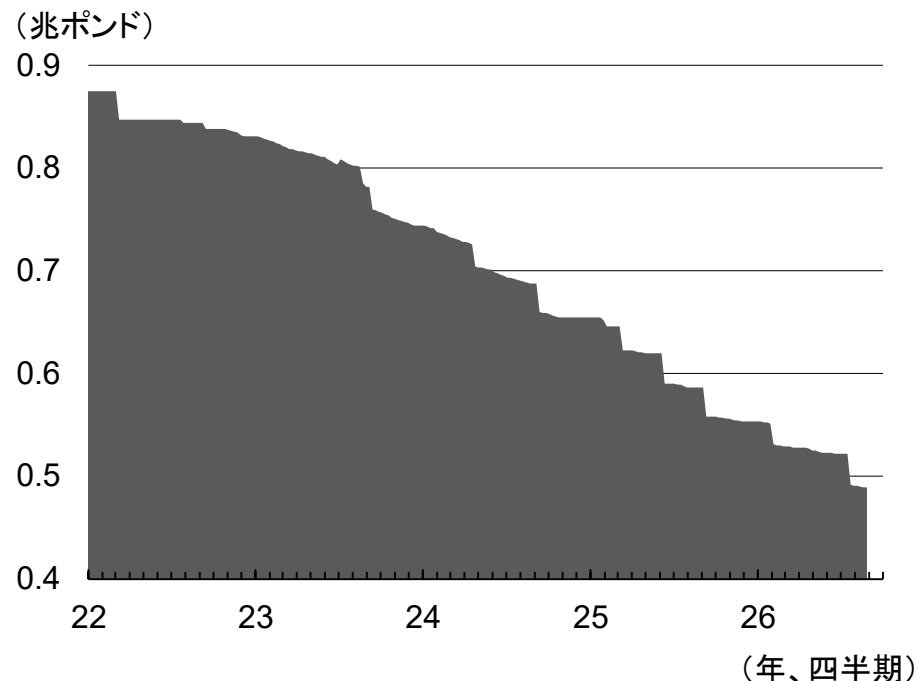
イングランド銀行(BOE)は9月17日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表し、政策金利であるバンクレートを現行の年3.75%に据え置く見通し。BOEのベイリー総裁は物価動向を注視しているが、エネルギー価格の加速が限定的なことを受けて慎重な姿勢を堅持している。次回のMPCの結果は11月5日に公表される。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

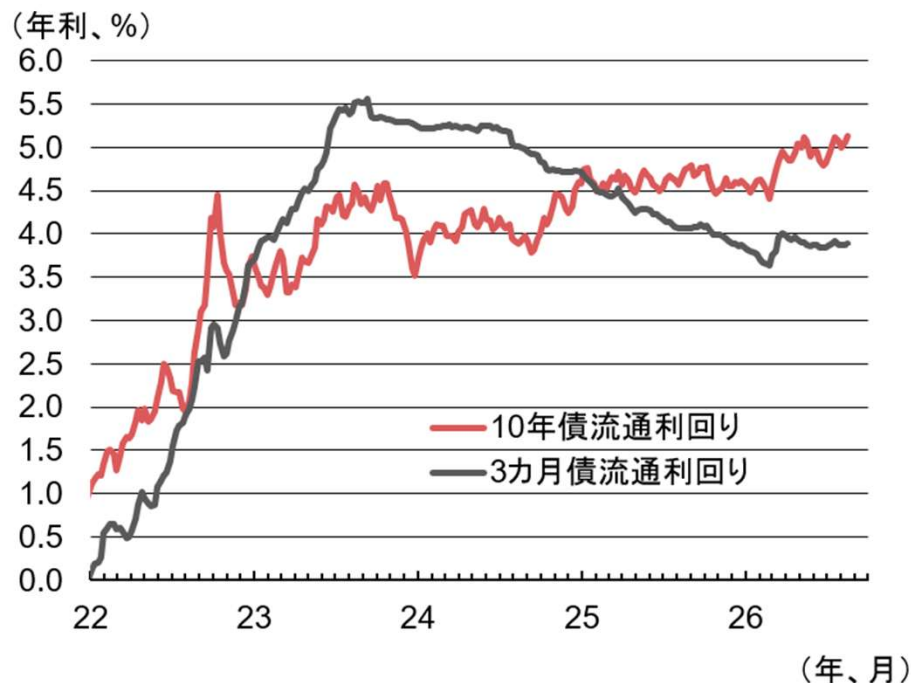


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は横ばい

英国の8月の長期金利は上昇した。インフレの根強さと財政面での圧力に対する投資家の懸念が金利を押し上げた。一方、同月の株価は横ばい。資源価格の動向をにらみつつ相場は一進一退となった。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所) BOE

株価(FT30指数)

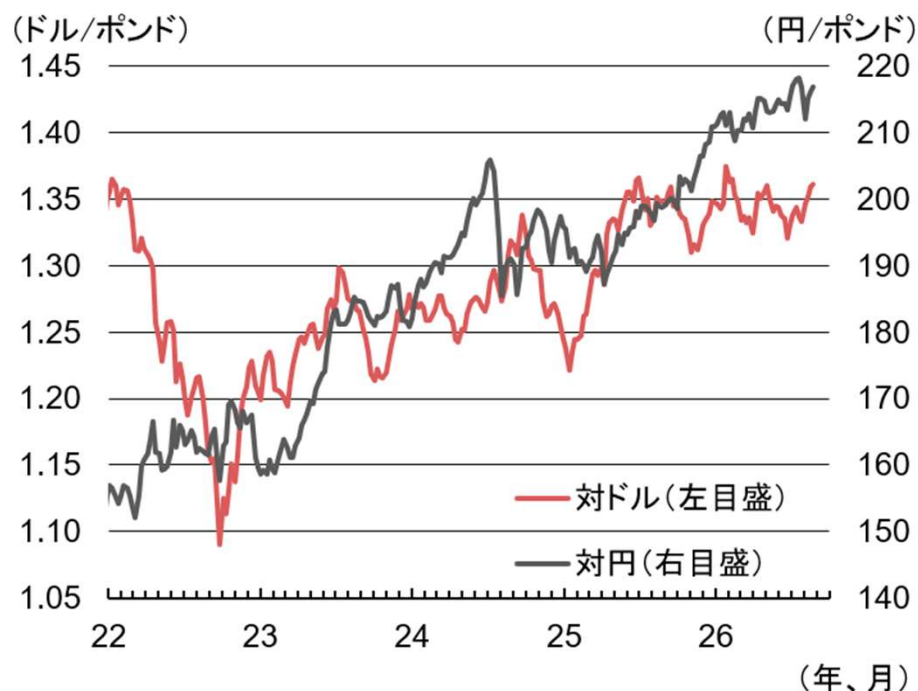


(出所) Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドル・対円ともに上昇

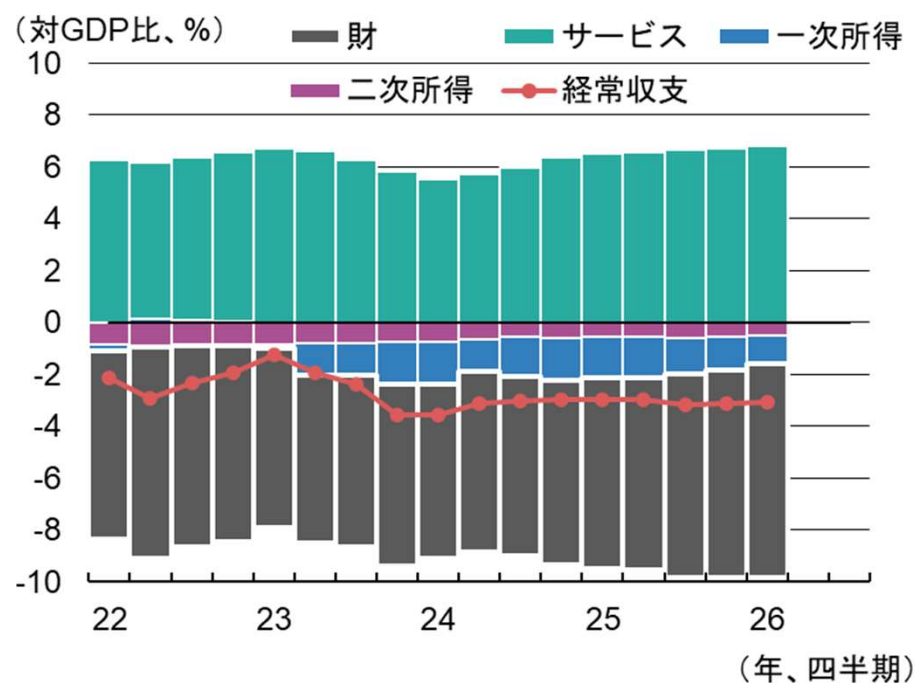
英国の通貨ポンドの8月の相場は対ドル・対円ともに上昇した。バーナム新首相に対する期待に加えて、7月にFRBが行ったユーロ売り円買い介入に伴う欧州通貨下落の一服がポンド買い材料となった。経常収支は、名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所) BOE

経常収支



(出所) BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー